

2016.3.15(火)

▶ 4.24(日)

本館 特別1室

東京国立博物館
コレクションの

保存と修理

本特集は今年で16回目を迎えました。このリーフレットでは、今回展示する作品の中から「コート 金茶色縹子地花唐草文様刺繍」「河童形土偶」の2件をご紹介します。また当館内の保存修復の現場であるX線CT撮影室、刀剣手入れ室、修理室、実験室の4室での活動をご案内します。作品の素材や技法、状態に適した修理といった、文化財を未来へつなげる活動をご覧いただき、一味違う展示をお楽しみいただければ幸いです。

修理前



縹子という織物は、経糸が長い幅で表面に織り出されるために擦り切れやすい特性を持っています。肩山や後身頃の下部などの経糸が擦り切れて欠失し、縹糸がすだれ状になっていました。

修理後



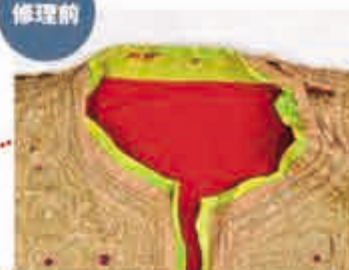
ふこいは縹糸をそろえ、裏に裂地をあてて、細かく縫い付けました。

修理前

大きな裂けや汚れ、刺繍のほつれなどがあり、展示ができませんでした。



修理前



衿ぐりから裾にかけて付けられた黄緑色の縁に、褪色や破れがみられました。



解体して、傷んだ裂を修理し、もう一度縫い合わせます。

修理後



修理後

安全に展示、取り扱いができるようになりました。



コート 金茶色縹子地 花唐草文様刺繍

きんちゃいろしゆすじはなからくさもんようししゅう【T1-418-3】

金茶色の縹子地に花唐草文様を細密に刺繍したコートです。裾をスカート状に広げ、ももとは前を3つのボタンで留める仕立てでした。裏地は後から補ったもので、赤い化学染料で染めた木綿を付けています。華やかな装飾や形状から、王侯貴族の男性用コートと考えられます。

インド・ジャイプール 1着 19世紀
絹、縹子地に絹糸と金銀モール糸で刺繍
丈88.5cm 肩幅34.5cm 袖長49.5cm
修理 (株)染技連

修理後は立てて飾れるようになったのよ

ほー



河童形土偶

かっぱがたどぐう [J34374]

頭部が凹むその形から河童形土偶とも呼ばれている土偶の一つです。河童形土偶は縄文時代中期、北陸地方を中心に分布しています。土坑の底部にすえられた砥石ないし台石の上から出土した特異な例で、その体は刺突文や沈線文で飾られています。

新潟県糸魚川市一の宮出土 1個
縄文時代(中期)・前3000～前2000年
土製
高30.0cm 幅19.1cm 厚8.7cm
林カン子氏寄贈
修理(有)武蔵野文化財修復研究所

解体

修理を始める前に作品の保存状態を詳細に記録しました。その後、接合されていたすべての箇所を解体して、それぞれの破片を丁寧にクリーニングしました。

接合

破片をアクリル樹脂でコーティングし、破片が失われている部分はエポキシ樹脂で補填して、全体的な形を復元しました。

修理前

頭部の一部、右乳房、両足先が欠損していました。また、過去の修理箇所が劣化して目立ってしまい、鑑賞性をさまたげていました。

修理後

最後に、鑑賞の際に違和感が生じないように、補填した部分に着色します。

元気になってうれしそうだなー

保存と修理の現場をみてみましょう

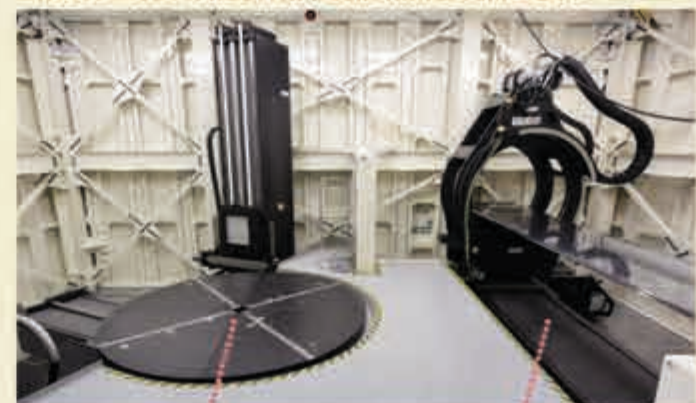
文化財の保存と修理はどのような場所で行なわれているのでしょうか。博物館の中で日々繰り返される保存と修理の現場をみてみましょう。

診断 材質や構造を調べる

X線CT撮影室

X線CT(コンピュータ断層撮影)装置は、東京国立博物館が世界に誇る巨大な文化財診断用の機器です。文化財の内部構造を立体的に把握し、保存状態の診断や修理方針の決定に必要な情報を提供します。大型や横長など様々な形状の文化財に合わせて撮影できるように、複数の装置が備わっています。

●幅・高さともに約250cmの大型文化財を撮影する装置(左)と、高さ約80cm、長さ約300cmの長尺の文化財を撮影する装置(右)が並ぶ姿は圧巻です。



●遠くからどのように作られたのか調べて ●自在な位置物に秘められた工芸技術を探っています。

予防 損傷を防ぐ

刀剣手入れ室

刀剣が美しい金属光沢を保ちながら現在に伝えられているのは、日常的に手入れを続けているからです。表面に油を引き、鞘に入れて保管することで、金属表面になるべく空気が触れない環境が作られるため、サビの発生を防ぐことができます。

●年間およそ300振の手入れをしています。



文化財の修理には長い時間とたくさんの人の手がかかるのね



修理 損傷をなおす

修理室

ここでは文化財の本格修理が行なわれています。本格修理とは、全体が著しく損傷している文化財に対して行なわれる修理で、全体的な解体など大がかりな工程が含まれます。数年間に及ぶ修理がこの場所で行なわれているのです。

●絵に剥落止めを施している際は、次に修理する作品の調査が行なわれています。



●剥離した絵画資料を補修しています。



実験室

当初は修理材料や展示具のテストなどを行っていたため、「実験室」と名付けられましたが、科学的調査に基づいて対症修理が行なわれる場所です。対症修理とは、部分的な損傷を回復することで展示活用が可能となる文化財に対して行なわれる必要最小限度の修理です。小規模かつ短期間ですが、高度な技術を必要とし、その数は年間700件以上に及びます。

●マウント(保護用の台紙)や作品保存用の保管箱の製作も行なわれています。



保存用の箱を作っています

浮世絵のマウントを作っています

出品リスト

No.	名 称	員数	作者／出土／伝来等	時代	列品番号	備考
1	河童形土偶	1個	新潟県糸魚川市一の宮出土	縄文時代(中期)・前3000～前2000年	J-34374	林カヅ子氏寄贈 飯田貞子氏からの寄付金による修理
2	深鉢形土器	1個	東京都八王子市檜原町出土	縄文時代(中期)・前3000～前2000年	J-37538	塩野半十郎氏寄贈
3	壺形土器	1個	群馬県高崎市竜見町出土	弥生時代(中期)・前2～前1世紀	J-22943	
4	土師器 高坏形土器	1個	大阪府柏原市・藤井寺市 船橋遺跡出土	古墳時代・3～4世紀	J-38864-4	田村淳正氏寄贈
5	土師器 長頸壺	1個	岡山県倉敷市庄新町 王墓山古墳出土	古墳時代・6世紀	J-7672	矢尾寅吉氏寄贈
6	◎色絵花鳥文大深鉢	1口	伊万里(柿右衛門様式)	江戸時代・17世紀	G-5101	
7	鉄矛	1本	朝鮮	楽浪時代・前1世紀	TJ-997	江浪芳太郎氏寄贈
8	鉄矛	1本	朝鮮	楽浪時代・前1世紀	TJ-998	江浪芳太郎氏寄贈
9	太刀	1口	古備前恒遠作	平安時代・12世紀	F-15812	
10	鳳凰文刺繍残欠	1面		飛鳥～奈良時代・7～8世紀	N-319-177-1	
11	夾纈裂	1面		奈良時代・8世紀	N-319-177-3	
12	平絹・緞襦袢残欠	1面		飛鳥～奈良時代・7～8世紀	N-319-177-6	
13	黄・茶地平絹襦袢手残欠	1面		飛鳥～奈良時代・7～8世紀	N-319-177-10	
14	紫地唐花獅子文錦幡足垂端飾	1枚	東大寺正倉院伝来	奈良時代・757年	I-337-192	
15	緑地錦幡足垂端飾	1枚	東大寺正倉院伝来	奈良時代・757年	I-337-193	
16	小襖下絵画卷	1巻	板谷家伝来	江戸時代・18～19世紀	A-12372-8491	
17	元明画模本	1巻	板谷家伝来	江戸時代・18～19世紀	A-12372-8496	
18	坪内老大人像	1幅	伝渡辺華山筆	江戸時代・19世紀	A-12336-1	高井軍一氏・高井滋子氏寄贈 バンクオブアメリカ・メリルリンチ 2013年文化財保護プロジェクト助成による修理
19	坪内老大人像付属黄文	1幅	大森文麿筆	明治30年(1897)	A-12336-2	高井軍一氏・高井滋子氏寄贈 バンクオブアメリカ・メリルリンチ 2013年文化財保護プロジェクト助成による修理
20	坪内老大人像画稿	1幅	渡辺華山筆	江戸時代・文政元年(1818)	A-12087	岡野哲策氏寄贈 バンクオブアメリカ・メリルリンチ 2013年文化財保護プロジェクト助成による修理
21	釈迦三尊像	1幅		南北朝～室町時代・14～15世紀	A-12105	
22	拾遺抄切	1幅	伝源俊頼筆	平安時代・12世紀	B-2936	
23	コート 金茶色縹子地 花唐草文様刺繍	1着	インド・ジャイプール	19世紀	TI-418-3	

◎は重要文化財です。

関連事業 — ギャラリートーク

最新情報はウェブサイト <http://www.tnm.jp/>

特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

日時: 3月15日(火) 14:00～14:30

場所: 本館 特別1室

講師: 高橋裕次(保存修復課長)

* 今回の展示では、土偶、法隆寺裂、掛軸など、様々な分野の作品について行った修理の内容やその成果を、よりわかりやすく紹介いたします。

「保存と修理 絵画修理の現場から」

日時: 4月12日(火) 14:00～14:30

場所: 本館 特別1室

講師: 瀬谷愛(保存修復室主任研究員)

平河智恵(保存修復室アソシエイトフェロー)

下田純平(保存修復室アソシエイトフェロー)

* 渡辺華山筆 国宝「鷹見泉石像」(パネル)「坪内老大人像画稿」などをみながら、掛軸作品修理の難しさやおもしろさをお伝えします。

「保存と修理 工芸・考古修理の現場から」

日時: 4月19日(火) 14:00～14:30

場所: 特別1室

講師: 酒井元樹(保存修復室研究員)

野中昭美(保存修復室アソシエイトフェロー)

* 工芸・考古作品の修理について、そのプロセスを説明しながら難しさやおもしろさをお伝えします。



編集・発行: 東京国立博物館 制作: DNPアートコミュニケーションズ
*ここに掲載した写真は修理施工者よりご提供いただいたものも含まれます。